

薬学委員会 薬剤師の職能とキャリアパス分科会（第24期・第4回）

日時 令和元年8月3日（土）11:00～12:50

場所 日本薬学会長井記念館1階 会議室A

出席者 平井みどり、望月眞弓、入江徹美、堤 康央、橋田 充、安原眞人、矢野育子

参考人 森 和彦（厚生労働省大臣官房審議官（医薬担当））、宮崎長一郎（日本薬剤師会）、

孫 尚孝（日本保険薬局協会）、中澤 一隆（日本チェーンドラッグストア協会専務理事）、

木平 健治（日本病院薬剤師会会長）、福島哉史（文部科学省高等教育局医学教育課薬学教育

専門官）、林 昌洋（日本医薬品情報学会理事長、虎の門病院薬剤部長）、橋田 亨（神戸市立

医療センター中央市民病院 院長補佐・薬剤部長）

議事

1. 前回分科会議事要旨案の確認を行った。
2. シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」の内容について意見交換した。
3. 報告書の構成と文案作成の分担等を決定した。

## 会議メモ

資料1 第24期第3回議事録案

資料2 薬剤師職能とキャリアパス分科会の活動実績

資料3 公開シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」企画書

資料4 第24期報告書スキーム(案)

資料5 「薬剤師レジデント制度～わが国の現状と課題～」橋田 亨

その他 公開シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」参加者配布資料

### 論点：

- ・ 資料4に基づき報告書のスキームを確認した。
- ・ 平成26年の「提言：薬剤師の職能将来像と社会貢献」をベースに、昨年度の制度部会の議論を踏まえて、「薬剤師の活動を社会に理解してもらえるような説明をする。」
- ・ 病院薬剤師は病棟に常駐されるようになって見えるようになってきている。薬局では、(1) 訪問薬剤師ステーション等在宅への関わり、(2) 健康サポートや予防への関わり、が重要。
- ・ +学術性も必要であるので、大学の役割も重要。
- ・ 専門薬剤師の社会への役割
- ・ 厚労省内に、薬剤師初期研修検討委員会を

スケジュール：令和元年11月末 報告書分担執筆締め切り

執筆担当：(全体として20ページ程度)

1 はじめに

2. 薬剤師職能と社会貢献(安原真人、堤康央)

3. 認定・専門薬剤師制度のあり方(矢野育子、平井みどり)

4. 卒後研修制度のあり方(橋田亨、入江徹美)

5. まとめ

橋田充、望月眞弓委員は報告書全般を校閲

来年1月～2月に第5回分科会を開催し、委員が一堂に会して報告書案について協議したい。

その他シンポから：

(1) 今後は医療者の供給も減ってくるので、上手にAIやロボット、非薬剤師を活用する。

- ・ 薬剤師の役割は、個への対応、AIの教師として、患者に寄り添う存在として。
- ・ 社会のニーズに応える。薬剤師もタスクシフティングして、質の高い業務を。

(2) がん患者会の方からの発言。「薬剤師はブラックボックス」「薬剤師の仕事が見えない。」

- ・ 昨年の制度委員会の検討から、継続的に服薬指導するとともに、患者から見てわかりやすいセンターを作るなど。地域で、薬剤師の出番はたくさんある。薬剤師の仕事ぶりを見せる。

・がん専門薬剤師は保険薬局にも必要。テレフォンフォローなど。

(3) プロフェッショナリズムとは？自らを高める姿勢。

(4) 薬剤師が変わると医療が変わる。

以上。